

Noto PLUS

12



広報のと 第94号

平成24年12月1日発行

発行・能登町 編集・広報情報推進課
〒927-0492 石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字197番地1

☎0768-62-10000(地)
能登町 URL: <http://www.town.noto.lg.jp>
Eメール: info@town.noto.lg.jp

能登で生きる幸せ



SPECIAL EDITION ★ NOTOism

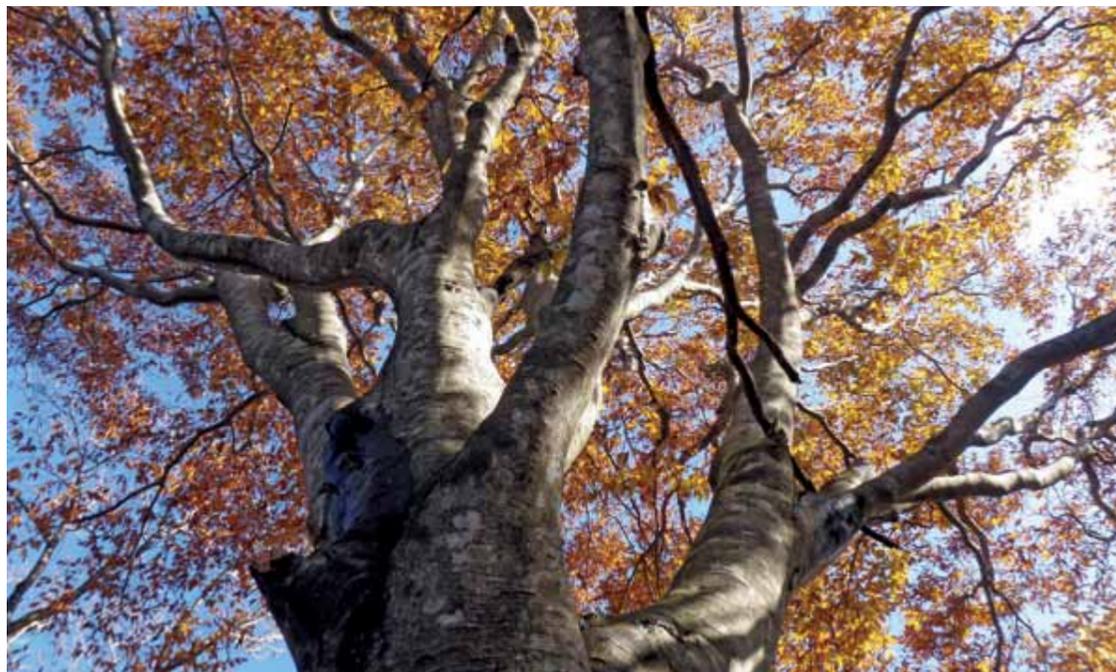
能登イズム

～世界農業遺産から「能登の暮らし」を考える～



最終回

『ある家族の手紙②』



ぶらり里山
ゆらり里海

『世界農業遺産』という贈り物

『手』

紙がありがとう。あのころよく話していた「ボジションがわかればミッションがわかる」という藤本敏夫氏の言葉を実践し、能登へ移住してしまっただけに当惑しながらも「いつでも戻ってこい」と言ってくれた君の言葉が懐かしい。

「風の人(ヨソ者)」と「土の人(地元民)」が出会うところに「風土」は生まれるという。能登は世界農業遺産。世界が認めた日本の典型的な農山漁村自給圏だ。そこをボジションに定め、ミッションが現れてくるのを待った三年半で学んだことは、住んでわかってくる能登への驚きと、家族まるごと住んでこそ受け入れられるという経験だった。それとどうやら僕には能登の人がうまく言い表せなかつた想いを代弁し、寄り添いながら本質へ導く「風」としての役割があるのかもしれない。そう自覚できただけでもうれしい。

ひとりで見える夢はつまらないということも知った。地域の想いに自分の夢を合わせ、自らやりたいことが人や地域のためにもなるという幸福な一致点を発見すれば、そこで自分の得意や才能を生かせる。それが本当の喜びに違いないという予感がする。その気持ちはもしかしたら、能登に生まれ育った人なら自然に身についた村人感覚なのかもしれない。これが郷土愛というものの起りだろうか。

さて、僕の夢は「ムラ人」の創出(関原剛氏提言)だ。自然を含めた能登のコミュニティに帰属意識を持つ人を求め「ムラ人」とし、交流や購買によって能登を支えてもらう。能登は「ムラ人」にコミュニティへの参画を許し、心の充足や食料・食文化を支える。つまり日本中に血のつながらない親戚を作ることと等しい。君が言うように昨年の大災害で日本人の意識が変わった。それに対する日本の原風景・能登からのひとつの答えⅡ贈り物になると信じ、実践したい。

次の知らせを楽しみにしていってくれ。また会う日まで。』



写真・文 山崎昭宏 Yamazaki Akihiro

【PROFILE】 昭和42年埼玉県生まれ。平成21年能登町笹川に移住。スローフードを標榜する友人が「料理民宿さんなみ」を訪れた。その時で主人と親しく談笑する現社長と知り合っただけで移住希望者(私)を紹介してくれた。私がここにいるのはそれがご縁。ゲンザイ当日ノ事務所ニオリマス。ブログ: <http://blog.livedoor.jp/yurariburari/>

